

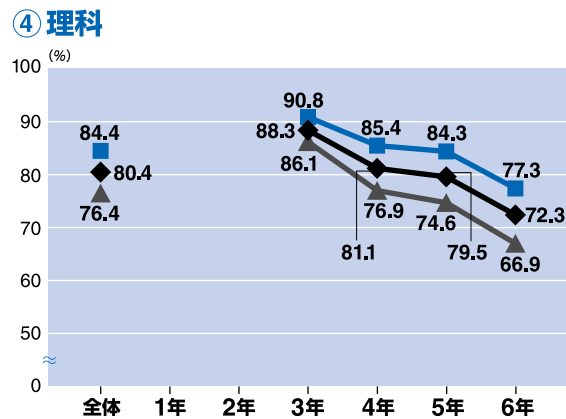
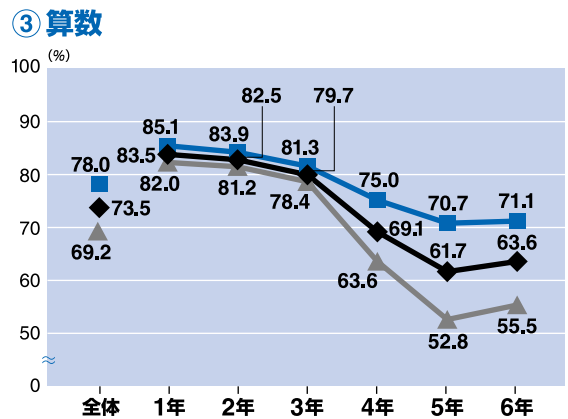
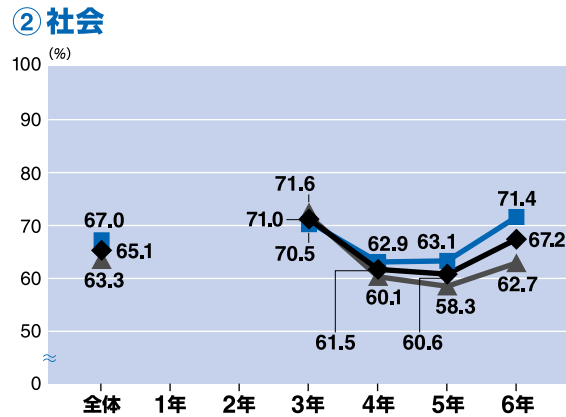
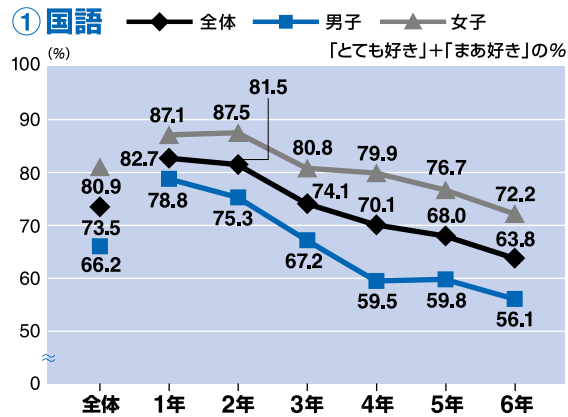
意識調査の結果

Benesse教育研究開発センター 研究員 野村徳之

「小学生の計算力に関する実態調査」は、各学年で学習する単元・内容から、そこで習得された計算力の実態を調査する「計算問題」と、算数に関する「意識調査」の二部構成で行った。子どもの計算力の高低には、彼らの算数や勉強に関するさまざまな意識が影響している可能性があると考えられる。ここからは、意識調査部分に関して明らかになったことをまとめる。

73.5%が「算数の勉強を好き」と回答

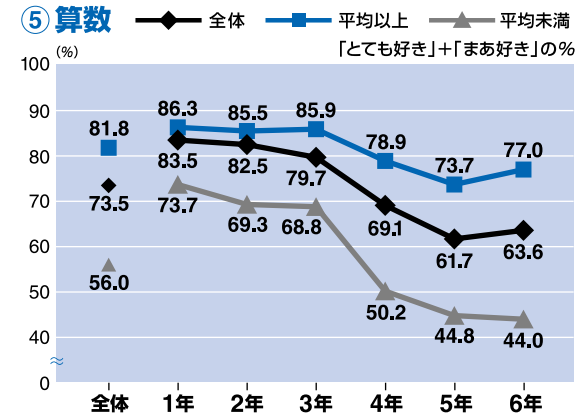
「あなたは算数の勉強がどのくらい好きですか」(全学年)という質問は、「国語(全学年)」「社会(3～6年のみ)」「理科(3～6年のみ)」の3教科の勉強がどのくらい好きかとあわせてたずねた。



●算数の「好き」(とても好き+まあ好き)の比率は学年が上がるとともに減少し、1年生83.5%から6年生63.6%になる。とくに「とても好き」の低下の幅が大きく、1年生は57.1%と半数を超えているが、6年生では22.8%と30ポイント以上も落ち込む。学年ごとの変化をみると、3年生から4年生にかけて「好き」の減少が目立っており、中学年でつまずく子が増えるようだ。また、性別では3年生までは差がないのに対して、4年生以降は性差が広がり、女子の苦手意識が高まる様子が見られる。

●国語と理科も算数と同様に「好き」の比率が学年とともに減少する。性別にみると、国語は女子、理科は男子に好まれている。社会は相対的にみて性差が小さく、また、学年による違いもあまり大きくないという特徴がある。

4年生で計算力が低い子どもの算数の苦手意識が高まる



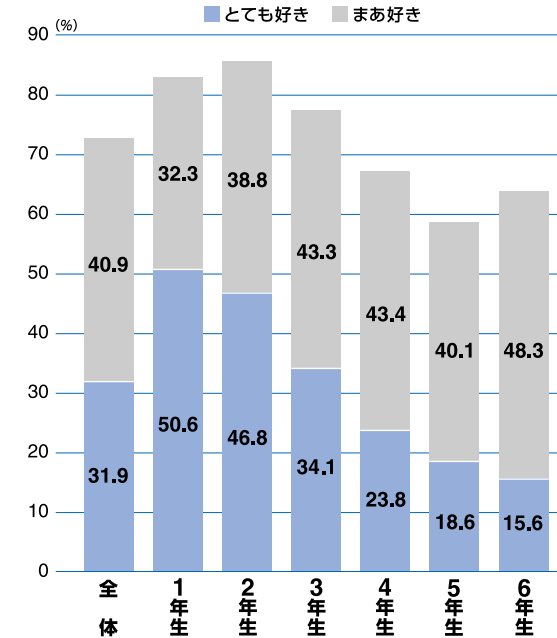
●算数を「好き」(とても好き+まあ好き)と回答する比率は、平均以上の得点を取った子どもが81.8%であるのに対して、平均点に満たなかった子どもは56.0%であった。計算力が高い子どもほど算数の「好き」の比率は高いが、平均未満の子どもでも半数以上が「好き」と回答している。ただし、平均未満の子どもは、「好き」の比率が3年生から4年生にかけて18.6ポイントも低下し、計算力の低い子が4年生で苦手意識を強めることがわかる。

*「平均以上」は計算問題で平均点以上の得点だった子ども、「平均未満」は平均点未満だった子どもを示す。

72.8%が「計算するのが好き」、62.7%が「計算のしかたを考えるのが好き」と回答

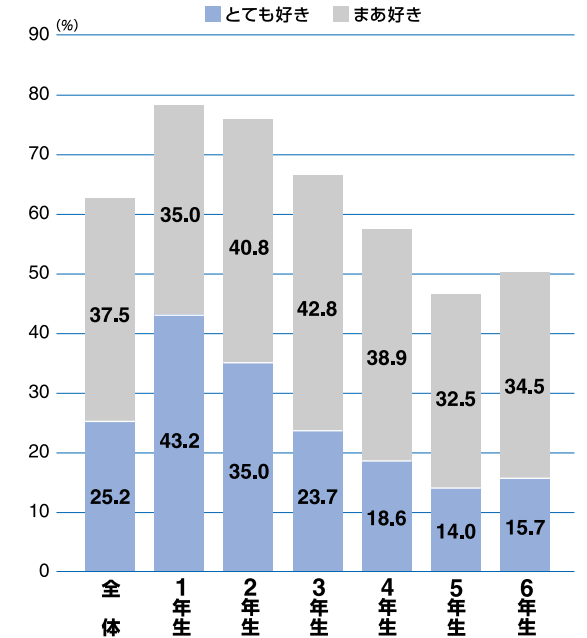
「あなたは計算するのが好きですか」と「計算のしかたを考えるのが好きですか」という質問は、1年生から6年生までの全学年を対象にたずねた。

⑥ 計算するのが好き



●「計算をするのが好き」かどうかをたずねたところ、「好き」(とても好き+まあ好き)という回答は全体では7割であった。学年別の推移をみると、低学年(1,2年生)では8割を超えているが、高学年(5,6年生)では6割前後まで下がる。とりわけ「とても好き」の減少が著しく、1年生50.6%から6年生15.6%と、30ポイント以上減少する。

⑦ 計算のしかたを考えるのが好き

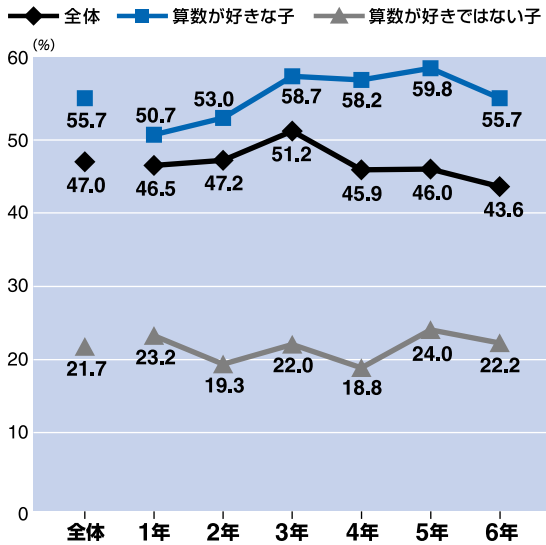


●続いて、「計算のしかたを考えるのが好き」かをたずねたが、「好き」(とても好き+まあ好き)の割合は全体で6割程度であり、「計算をするのが好き」の全体の比率よりも10ポイント程度低かった。

算数が好きではない子は、計算ができてうれしかった経験が少ない

「あなたは計算が正しくできてうれしかったことがありますか」の質問も、1年生から6年生までの全学年を対象にたずねた。

⑧ 計算が正しくできてうれしかったことがある (算数の好き嫌い別)



●「計算が正しくできて、うれしかった」という経験について、「何度もある」と回答した割合は全体で5割前後で、学年による変化は小さい。いずれの学年でも、半数程度の子どもがうれしい体験を何度もしているようだ。ただし、「算数が好きな子」は「何度もある」が5割台であるのに対して、「算数が好きではない子」は2割前後と少ない。算数の好き嫌いとは計算が正しくできてうれしかった体験は、関連があることがわかる。

テストでよい点をとれるとうれしい教科	1位	算数 37.8% (全体)
むずかしい問題がとけるとうれしい教科	1位	算数 62.3% (全体)
新しいことを知ることができてうれしい教科	1位	理科 41.6% (全体)
いろいろな考え方ができておもしろい教科	1位	理科 38.5% (全体)
ふだんの生活に役立っていると思う教科	1位	算数 33.9% (全体)

テストでよい点をとれるとうれしい教科

	全体	3年生	4年生	5年生	6年生
1位	算数 37.8%	算数 38.7%	算数 38.9%	算数 39.6%	算数 34.1%
2位	国語 29.1%	国語 32.3%	国語 30.0%	国語 30.5%	社会 26.4%
3位	社会 16.3%	理科 14.0%	社会 13.4%	社会 16.2%	国語 23.3%
4位	理科 12.9%	社会 9.5%	理科 13.2%	理科 10.8%	理科 13.7%

むずかしい問題がとけるとうれしい教科

	全体	3年生	4年生	5年生	6年生
1位	算数 62.3%	算数 55.1%	算数 59.5%	算数 66.8%	算数 68.5%
2位	国語 13.1%	国語 19.8%	国語 14.1%	社会 11.2%	社会 14.1%
3位	社会 12.2%	社会 11.2%	社会 12.5%	国語 10.4%	国語 8.0%
4位	理科 8.5%	理科 9.2%	理科 9.3%	理科 8.7%	理科 6.9%

新しいことを知ることができてうれしい教科

	全体	3年生	4年生	5年生	6年生
1位	理科 41.6%	理科 43.5%	理科 43.2%	理科 41.4%	社会 38.3%
2位	社会 28.3%	社会 21.2%	社会 24.2%	社会 30.1%	理科 38.1%
3位	算数 14.3%	算数 15.3%	算数 15.5%	算数 14.8%	算数 11.5%
4位	国語 10.8%	国語 13.0%	国語 11.8%	国語 10.2%	国語 8.2%

いろいろな考え方ができておもしろい教科

	全体	3年生	4年生	5年生	6年生
1位	理科 38.5%	理科 41.5%	算数 38.9%	理科 44.1%	算数 40.4%
2位	算数 35.7%	算数 30.6%	理科 34.9%	算数 33.2%	理科 33.5%
3位	国語 13.4%	国語 12.0%	国語 13.7%	国語 12.2%	国語 15.6%
4位	社会 7.0%	社会 8.3%	社会 6.5%	社会 7.1%	社会 6.2%

ふだんの生活に役立っていると思う教科

	全体	3年生	4年生	5年生	6年生
1位	算数 33.9%	社会 35.3%	算数 32.5%	算数 36.6%	算数 39.0%
2位	社会 27.3%	算数 27.8%	社会 28.0%	社会 26.3%	国語 28.6%
3位	国語 23.6%	国語 20.2%	国語 20.6%	国語 25.5%	社会 19.2%
4位	理科 10.7%	理科 10.8%	理科 13.6%	理科 8.0%	理科 10.3%

* 上記5つの設問は、3年生～6年生を対象とした。

* 表では「無答不明」を省略した。そのため回答の合計は100%になっていない。

●「テストでよい点をとれるとうれしい教科」は37.8%が、「むずかしい問題がとけるとうれしい教科」では62.3%が「算数」を選んでおり、いずれも第1位である。「算数」は、できたという体験が喜びにつながりやすい教科なのだろう。性別で見ると、「算数」を選択する比率はいずれの項目でも男子より女子のほうが高い(表は省略)。算数に苦手意識をもつ女子のほうが、できたときの喜びは大きいようだ。

●「新しいことを知ることができてうれしい教科」「いろいろな考え方ができておもしろい教科」は、いずれも「理科」が第1位である。知識が広がる喜びや思考のおもしろさを「理科」の授業のなかで感じている子どもが多い。また、「ふだんの生活に役立っていると思う教科」は、「算数」「国語」「社会」の3教科に回答が散らばった。